

施策調査専門委員会の検討状況について

【 第42回施策調査専門委員会（H30.1.31）】

- <議題> 1 特別対策事業の点検結果報告書（第2期・平成28年度版）（案）及び同概要版（案）について
- 2 特別対策事業の点検結果報告書（第3期版）の構成見直しについて
- 3 中間評価に向けた対応検討、平成30年度の委員会開催スケジュールについて
- 4 河川のモニタリング調査（河川の流域における動植物等調査）の調査計画について

<主な意見（要旨）>

【 議題1 】

特別対策事業の点検結果報告書（第2期・平成28年度版）（案）及び同概要版（案）について

- 平成29年度に対応した内容を平成28年度実績版に載せるのも、未来に向かって改善の取組をしていることなので、時点については、あまり拘る必要はない。
- シカの話は重要で、総括本文のどこかに盛り込みたい。
- 「税投資の効率性」という記載は、シカ対策に限った話ではなく全ての事業に関わる問題であるため、1番事業の総括に出てくるのは不自然。全体の総括に記載するのが妥当。
- シカ対策は丹沢大山に限った問題ではなく、森林整備全体に係る問題であるため、1番事業の総括に記載し、2番事業に記載の案については、個別意見として扱う。
- 全体の総括の構成変更について、並び替えを行うことで読みやすくなった。構成の変更については問題ない。
- 全体総括の②アウトプットの冒頭で、事業量と予算の執行状況についても触れた方がよい。

【 議題2 】

特別対策事業の点検結果報告書（第3期版）の構成見直しについて

- 報告書の見直しと併せて県のホームページのメンテナンスも行う必要がある。
- 今回の見直し方針に関する説明（毎年の点検結果報告書では、アウトプットと1次的アウトカムを中心に掲載し、2次的アウトカムや最終的アウトカムに関しては、中間報告でまとめる。など）を『I はじめに』の「点検結果報告書の作成方針」で記載する。
- 本報告書に県民会議委員の意見が掲載されている旨を明記いただきたい。
- 新規必要額という表現は分かりづらいので、「一般会計」や「特別会計」など分かりやすい表記に変更する。
- 『IV あとがき』に関連ホームページのリンク集を掲載する。

【 議題 3 】

中間評価に向けた対応検討、平成30年度の委員会開催スケジュールについて

《経済評価関連》

- 現在、色々な森林の生態系サービスが貨幣評価出来るようになっており、（第2期に実施した）CVM方式で実施しないといけないということはない。林野庁でも事業評価マニュアルを作成しているので、内容を確認いただき、是非、第3期での経済評価の実施について検討いただきたい。
- 前回と同じ手法であれば原案のとおり実施しない方針が良いと考えるが、他に有効な手法があれば検討するのが良い。
- 前回の調査結果に関してもあまり知られていないため、少なくとも委員の方には周知する必要がある。その上で、第3期の実施について議論するのが良い。また、前回調査を実施した際にも様々な検討を行っているので、その時のサマリーなども情報提供した上で議論する必要がある。
- 調査の規模や予算の話もあるので、来年度はまずは準備（経済評価の実施についての検討）という形で進めたい。

《県民参加型のワークショップ関連》

- ワークショップのねらいとして、①事業の成果を県民に説明するという側面と②第4期に向けてどのように事業展開するかについて、県民会議委員だけではなく県民に呼びかけて議論するという側面があり、それを考慮すると、平成30年度に実施するのは妥当。
- 内容については、どのような方法で何に焦点をあてて実施するかについて議論が必要。スケジュールも含め、叩き台となる資料を事務局に準備いただき、検討については早い時期に行っていく必要がある。
- ワークショップの実施にあたっては、施策調査専門委員会のメンバーだけではなく、前回同様、横断的な構成にして実施できると良い。
- ワークショップ開催の周知に関しては、これまでの周知先に加え、丹沢大山再生委員会や県立都市公園など別チャンネルで関連のある団体や組織へも周知いただきたい。

【 議題 4 】 河川のモニタリング調査（河川の流域における動植物等調査）の調査計画について

- 今回説明いただいた調査方針で来年度調査を実施いただきたい。